

令和5年度 足立区立学校国際コミュニケーション科に係る自己評価書兼学校関係者評価書

学校名 足立区新田学園
 学校長名 小坂 裕紀
 評価団体名 開かれた学校づくり協議会

学校教育目標	地域を愛し、学ぶ意欲に溢れ、国際社会において未来を切り拓く心豊かな児童・生徒を育成する。 ・自ら学ぶ人 ・共に生きる人 ・健やかでたくましい人	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像等	【目指す学校像】・確かな学力の定着を図る学校（基礎基本の定着）・心と体を育てる学校（行事や諸活動を通して心と体力を育成）・開かれた学校（地域との連携） 【目指す児童・生徒像】・自ら学ぶ人 ・共に生きる人 ・健やかでたくましい人 【目指す教師像】・基礎・基本の定着を目指す熱意と指導力のある教師 ・児童・生徒とともに汗を流し、喜びや悲しみを分かち合う教師・校長の経営方針の下、組織的に、連携して課題に取り組める教職員
--------	--	-----------------------------	---

学習内容	前年(R4年)度の課題改善の方向性	具体的な取組	成果・課題	来年度に向けた改善策	学校関係者評価
英語によるコミュニケーション能力を高める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で、直接コミュニケーションをとる機会が少なくなっていた。英語を使って直接コミュニケーションをとる機会を増やしていく。 ・英語が母語である人や英語を学んでいる人など外部の人とのかわりを継続的に行うために、連携相手との連絡を密にとり、連携していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7～9年生では、校外学習の際に外国の人にインタビューを行うことで、英語を使ったコミュニケーションを体験する機会を設けた。 ・5, 6年生では、オンライン上で台湾や香港に住む児童と英語を使ったコミュニケーションを体験する機会を設けた。 ・2年生は、英語を学ぶ高校生と交流し、英語を使った学習に取り組んだ。 ・1, 3, 4年生は、異学年交流をしながら、ちがう学年の児童との英語を使ったコミュニケーションを体験する機会を設けた。 ・外部との連携については、担当教員がこまめに連絡をとり、交流日時や内容を設定した。 	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・9年生の学習評価アンケートでは、「外国人の人へのインタビューで自らの聞きたいことを質問することができた」という項目で、88.9%の肯定的回答を得ることができた。 ・6年生の学習評価アンケートでは、「交流相手に英語を使って相手に伝えたり、相手の英語を理解しようという気持ちを高めることができた」という項目で、87.7%の肯定的回答を得ることができた。 ・4年生の学習評価アンケートでは、「相手のことを考えて、学んだことを英語で伝えることができた」という項目で、92.6%の肯定的回答を得ることができた。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・外部との連携は担当教員の役割が重要なので、継続的に行うためには、次年度へ確実に引き継ぐ必要がある。 ・オンラインでのやりとりはリアルタイムで行うよさがある反面、大人数と大人数のやりとりなのでより密にコミュニケーションを取れる方法を考えていく必要がある。 ・7年生の到達目標は、英検5級レベル60%以上に設定していたが、実態は26%であった。7年生はまだスタート時期なので目標設定自体を40～50%に見直していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、国際コミュニケーションの内容の見直しを行った。そのため、昨年度末に作成した、令和5年度到達目標（指標）とずれが生じている。今年度取り組んできたことをもとに、来年度の到達目標を設定したい。 ・オンライン上での交流は、交流する当日だけではなく、事前の指導や事後の振り返りが重要である。交流相手と連携しながら計画的に学習をすすめていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育に力を入れていただいている。ありがとうございます。 ・児童生徒の英語力を今後も高めてください。

令和5年度 足立区立学校国際コミュニケーション科に係る自己評価書兼学校関係者評価書

学校名 足立区新田学園
 学校長名 小坂 裕紀
 評価団体名 開かれた学校づくり協議会

学校教育目標	地域を愛し、学ぶ意欲に溢れ、国際社会において未来を切り拓く心豊かな児童・生徒を育成する。 ・自ら学ぶ人 ・共に生きる人 ・健やかでたくましい人	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像等	【目指す学校像】・確かな学力の定着を図る学校（基礎基本の定着）・心と体を育てる学校（行事や諸活動を通して心と体力を育成）・開かれた学校（地域との連携） 【目指す児童・生徒像】・自ら学ぶ人 ・共に生きる人 ・健やかでたくましい人 【目指す教師像】・基礎・基本の定着を目指す熱意と指導力のある教師 ・児童・生徒とともに汗を流し、喜びや悲しみを分かち合う教師・校長の経営方針の下、組織的に、連携して課題に取り組める教職員
--------	--	-----------------------------	---

学習内容	前年(R4年)度の課題改善の方向性	具体的な取組	成果・課題	来年度に向けた改善策	学校関係者評価
国際理解を深める学習	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で、体験活動を縮小する傾向にあった。日本の文化や他国の文化を直接体験し、思いや考えを深める機会を設けていく。体験しただけで終わらせず、活動を振り返ったり詳しく追究する課題を設定していく。 ・英語によるコミュニケーション能力を高める学習と連動して、交流相手のことを探究する活動や交流後にもっと知りたいことをを探究する活動を設定していく。 ・各学年の実態や社会情勢に応じて学習内容を見直して設定していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5、6年生では、英語交流相手の台湾や香港の文化や暮らしについて調べ、交流して気付いたことやもっと知りたいことを調べていく学習を設定した。 ・7～9年生では、英語交流をする相手について調べたり、交流後に感じたことを振り返ったりする学習や体験する日本文化について詳しく追究する課題を設定した。 ・4、6年生では、「SDGs17の目標」について取り扱い、自分たちの生活や国際的な情勢について考える学習を設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 ・5年生の学習評価アンケートでは、「様々な国や地域の文化に興味をもつことができた」という項目で、92.5%の肯定的回答を得ることができた。 ・8年生の学習評価アンケートでは、「大使館訪問において、事前に調べたことをもとにその国の文化や特徴について理解を深めることができた」という項目で、96.6%の肯定的回答を得ることができた。 ・6年生の学習評価アンケートでは、「SDGsのテーマのうち自分の興味のあることを調べ、様々な現状や課題、自分たちにできることについて関心を高めることができた」という項目で、85.7%の肯定的回答を得ることができた。 【課題】 ・取り扱うテーマが重なる学年があり、学習テーマを見直すか、学年の段階によって学習内容をより深められるようにしていく必要がある。 ・学習評価アンケートでは、到達目標を挙げている4、7、9年生で概ね肯定的な回答を得ているが、到達度目標で設定している内容とずれが生じている。次年度に整合性を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、国際コミュニケーションの内容の見直しを行った。そのため、昨年度末に作成した、令和5年度到達目標（指標）とずれが生じている。今年度取り組んできたことをもとに、来年度の到達目標を設定したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの国々と交流できるのは、学校ならではのとてもよい学習です。 ・SDGsについて学校でも学ぶのは大切なこと。今後も続けてください。

令和5年度 足立区立学校国際コミュニケーション科に係る自己評価書兼学校関係者評価書

学校名 足立区新田学園
 学校長名 小坂 裕紀
 評価団体名 開かれた学校づくり協議会

学校教育目標	地域を愛し、学ぶ意欲に溢れ、国際社会において未来を切り拓く心豊かな児童・生徒を育成する。 ・自ら学ぶ人 ・共に生きる人 ・健やかでたくましい人	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像等	【目指す学校像】・確かな学力の定着を図る学校（基礎基本の定着）・心と体を育てる学校（行事や諸活動を通して心と体力を育成）・開かれた学校（地域との連携） 【目指す児童・生徒像】・自ら学ぶ人 ・共に生きる人 ・健やかでたくましい人 【目指す教師像】・基礎・基本の定着を目指す熱意と指導力のある教師 ・児童・生徒とともに汗を流し、喜びや悲しみを分かち合う教師・校長の経営方針の下、組織的に、連携して課題に取り組める教職員
--------	--	-----------------------------	---

学習内容	前年(R4年)度の課題改善の方向性	具体的な取組	成果・課題	来年度に向けた改善策	学校関係者評価
自らの生き方を考える学習	・学校行事(特活的な取組や宿泊行事)に絡めて取り扱う内容が多く、「自ら課題を設定し、情報を用いて追究する活動を通して課題解決能力を育てる」という目標を意識した学習内容とずれが生じている。評価基準を設け、カリキュラムを見直すことで、児童生徒と教員の意識を変えていく。	・評価基準(ループリック表)を作成することで、なんのために取り組み、どのような力を身に付けるのか、児童生徒や教員との共通理解を図った。 ・5,6年生は、宿泊行事に絡めた学習テーマだけではなく、「仕事について」「自分について」など、より自らの生き方について考えるテーマを設定した。 ・4~9年生では、調べた内容をスライドにまとめ、異学年にプレゼンテーションを行う活動を設定した。	【成果】 ・1~9年生まで全学年で、評価基準(ループリック表)をもとに学習評価アンケートに取り組み、今年度の学習を見直すとともに、次年度への課題を明らかにすることができた。 ・9年生では「進路や職業について探求し、自己の考えやものの見方を広げることができた」という項目で95.6%の肯定的回答を得ることができた。 ・異学年へのプレゼンテーションを設定することで、学習したことをまとめたり伝えたりする意欲を高めることができた。 ・7年生の学習評価アンケートでは、「自然教室での体験活動を通して、食文化や生きること、郷土についての考えを深めることができた」という項目で、90.8%の肯定的回答を得ることができた。 ・5年生の学習評価アンケートでは、「自然教室での体験から普段の生活に生かしたいことを見つけたり、仕事調べの学習から様々な仕事に興味をもったりすることができた」という項目で、94.6%の肯定的回答を得ることができた。 【課題】 ・学習評価アンケートでは、到達目標を挙げている4,7,9年生で概ね肯定的な回答を得ているが、到達度目標で設定している内容とずれが生じている。次年度に整合性を図っていく。	・今年度、国際コミュニケーションの内容の見直しを行った。そのため、昨年度末に作成した、令和5年度到達目標(指標)とずれが生じている。今年度取り組んできたことをもとに、来年度の到達目標を設定したい。	・コロナが落ち着き、違う学年と発表会で交流できるようになったのはよかったです。 ・8年生のおしごとランドなどよい取組です。